

三菱ケミカルグループ

サステナビリティ説明会 2026

2026年2月25日

三菱ケミカルグループ株式会社
執行役員 チーフサステナビリティオフィサー
三田 紀之

目次

- 1 当社のサステナビリティ・グリーンケミカルの方角
- 2 GHG削減
- 3 サステナビリティを核とした事業成長の実現に向けて
 - グリーンケミカルへの取り組み
 - スペシャルティマテリアルズにおける顧客貢献

目次

1 当社のサステナビリティ・グリーンケミカルの方角

2 GHG削減

3 サステナビリティを核とした事業成長の実現に向けて

- グリーンケミカルへの取り組み
- スペシャルティマテリアルズにおける顧客貢献

サステナビリティを巡る世界の動向

行き来しながら、まだら模様で進む、先行き不透明な世界

- 米国：市場・社会は二極化。政権変更などで振れつつ、市場主導で、結果的にゆっくりと進むか
- 欧州：グリーンの旗は降ろさず、産業競争力との両立として、スピードなどを調整か
- 中国：圧倒的なCNエネルギーポテンシャルで膨大な先進的投資
- グローバルな取り組みは主導できず、地域ごとに異なる動きか (cf. COP30)

紆余曲折しながらも、大きな方向は変わらずか

- 資源・エネルギー確保、サプライチェーン強靱化が最大の視点に →CNエネルギー及びCEの強い原動力
- 環境問題（特に気候変動）の現実の脅威の実感 →人々の支持

競争力・セキュリティアジェンダとしてのサステナビリティ・グリーントランスフォーメーション (GX)

- 国：自律的な経済成長、資源エネルギー安定供給、サプライチェーン強靱化
- 企業：新たな付加価値・競争力の源泉（バリューチェーンへの価値提供へ）
- 各国・地域の規制の違いからくる国際的側面が課題に（域外適用、国境調整、支援措置の要件、サプライチェーン管理）

競争力としてのGX

- セキュリティ・エネルギー資源アジェンダとして、CN・CEへの社会・顧客のニーズは続く
- 日本の化学産業が、大規模・安価な競争にグローバル競争で勝っていくために、このニーズへの対応は大きな競争力の源泉の一つ。顧客の多様なニーズに対応するための機能と、化石原料からの原料転換
- CNエネルギーなどのポテンシャルに優れる競合国の発展スピードは目覚ましく、技術・先進国市場での優位性・既存サプライチェーンを活かし、セキュリティ視点も踏まえつつ、これに先行する必要
- 公的部門には、インフラ（CNエネルギー供給）、市場創造、ルール形成（レベルプレイングフィールド）を期待

		供給サイド（ビジネス）として	需要サイドとして
CN	エネルギー安定供給、GHG削減	<ul style="list-style-type: none"> ● CNエネルギー供給 ● 需要家の省エネ・燃料転換への貢献 ● 低CFP製品の供給 	<ul style="list-style-type: none"> ● CNエネルギー調達（燃料転換） ● 省エネ（プロセス転換）・活動量低下 ● 低CFP製品の調達
CE	資源効率性、資源確保	<ul style="list-style-type: none"> ● CE部材・素材（再生材）の供給 ● 需要家のCE型プロセスへの貢献 ● CE型ビジネスモデル（サプライチェーン構築） 	<ul style="list-style-type: none"> ● CE部材・素材の調達 ● CE型プロセスへの転換（シェアリング、廃棄物再利用など）

基本的視座

- 長期的なビジョン
- 時間軸
 - ✓ 経済性・競争優位のあるものから順に
 - ✓ 長期的視野での先手を打ち、先行優位に
- 競争優位

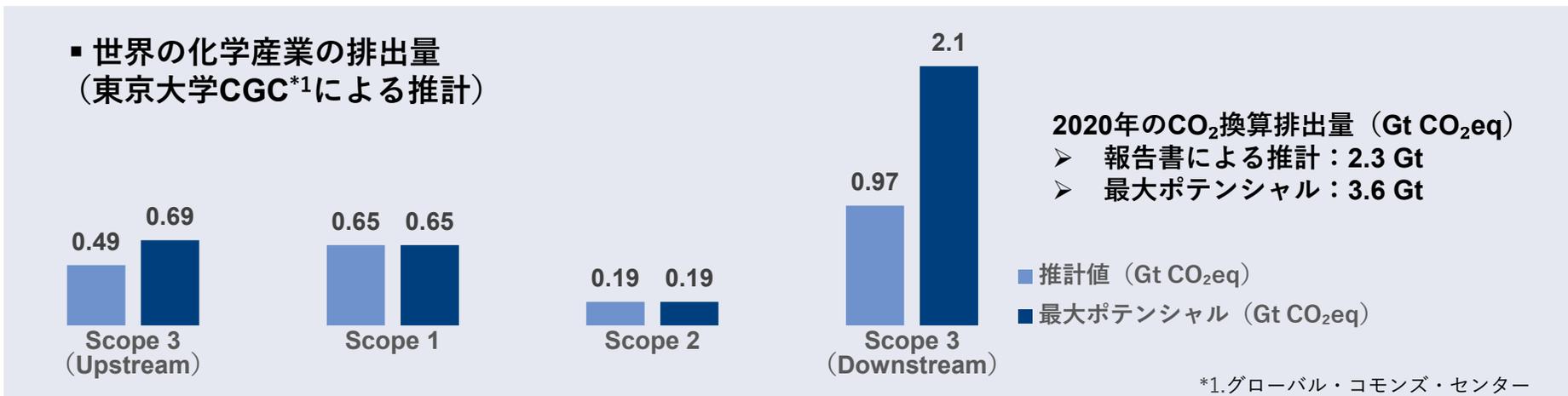
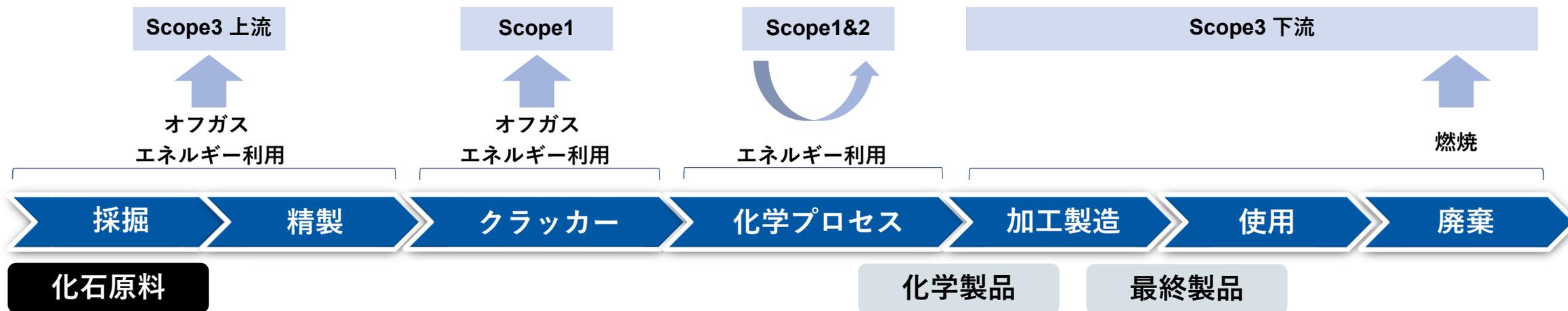
サプライチェーンで連携した価値提供

- サプライチェーン全体を通じたGX価値がビジネスにとっての価値
- 上下・関連産業の連携（特にコンビナートでの集積）
- サプライチェーンの全ステークホルダーとの連携

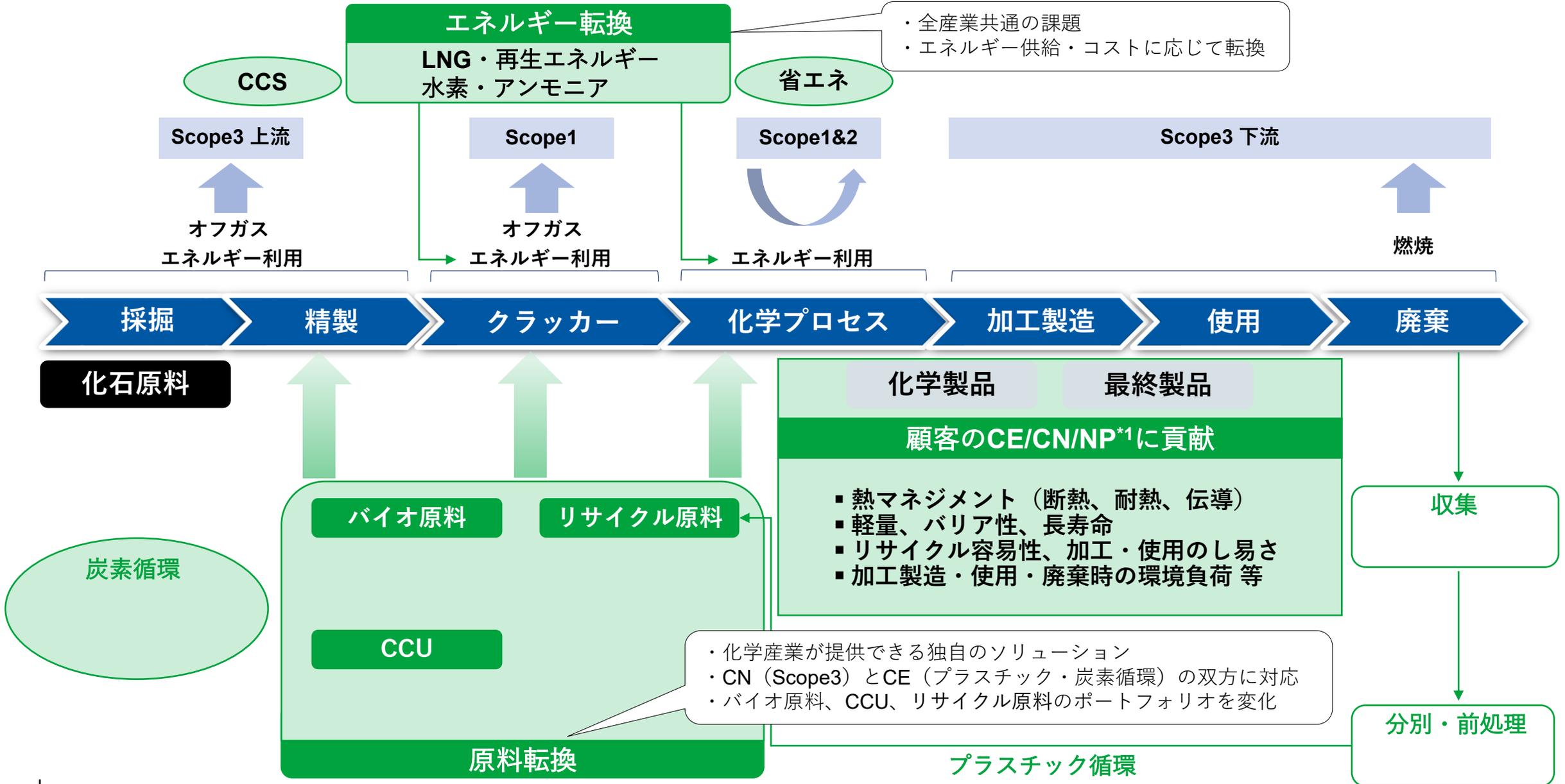
データマネジメント

- データ把握、可視化による自らのプロセス改善と対外活用（ステークホルダーへの価値提示）
- 財務データと同様の、データドリブン意思決定
- サプライチェーン全体でのデータマネジメント（LCA）、デジタルプロダクトパスポート、トレーサビリティ

化学産業のGHG排出構造



化学産業のグリーントランスフォーメーション（GX）の方向性



目次

1 当社のサステナビリティ・グリーンケミカルの方角

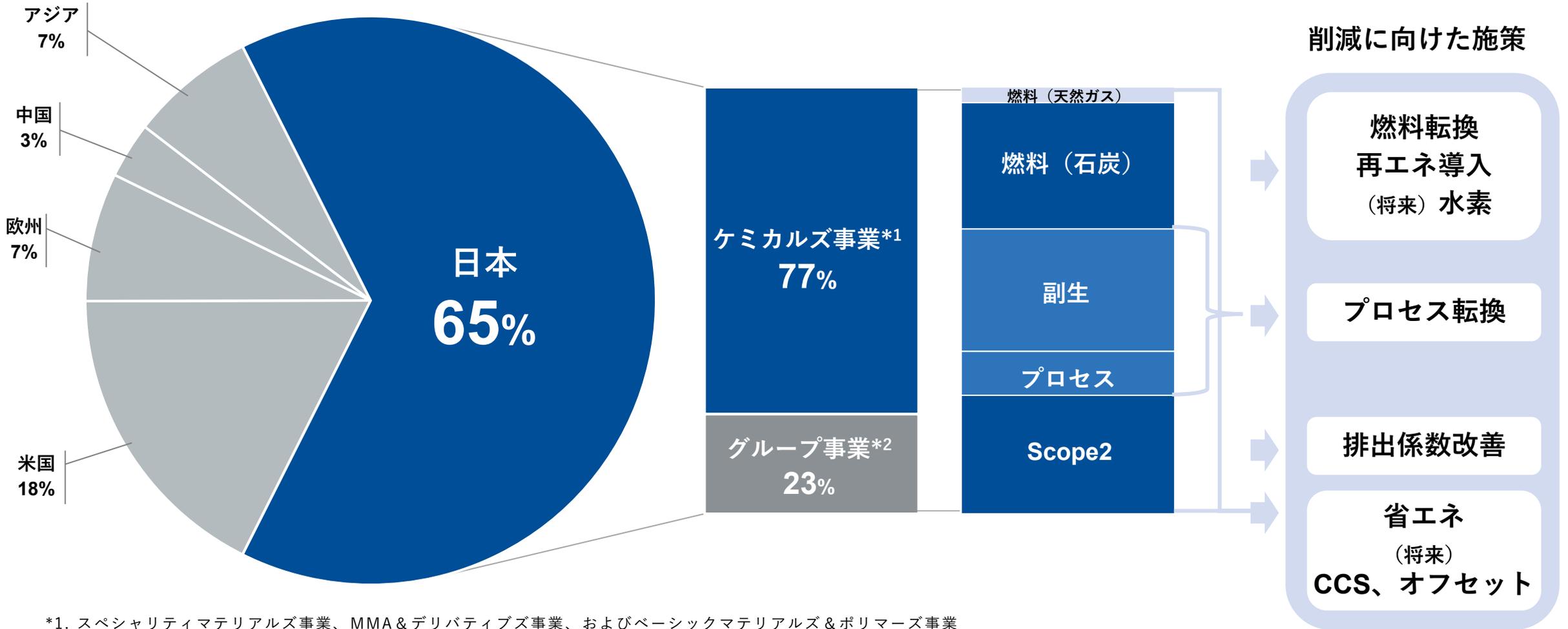
2 GHG削減

3 サステナビリティを核とした事業成長の実現に向けて

- グリーンケミカルへの取り組み
- スペシャルティマテリアルズにおける顧客貢献

当社のGHG排出量 (Scope1&2) *2019年度を基準年として算定

- Scope1&2の大半は日本
- 主要排出源は、燃料（石炭火力）、副生ガス（クラッカー）、購入電力（Scope2）



*1. スペシャルティマテリアルズ事業、MMA&デリバティブズ事業、およびベーシックマテリアルズ&ポリマーズ事業

*2. ファーマ事業及び産業ガス事業

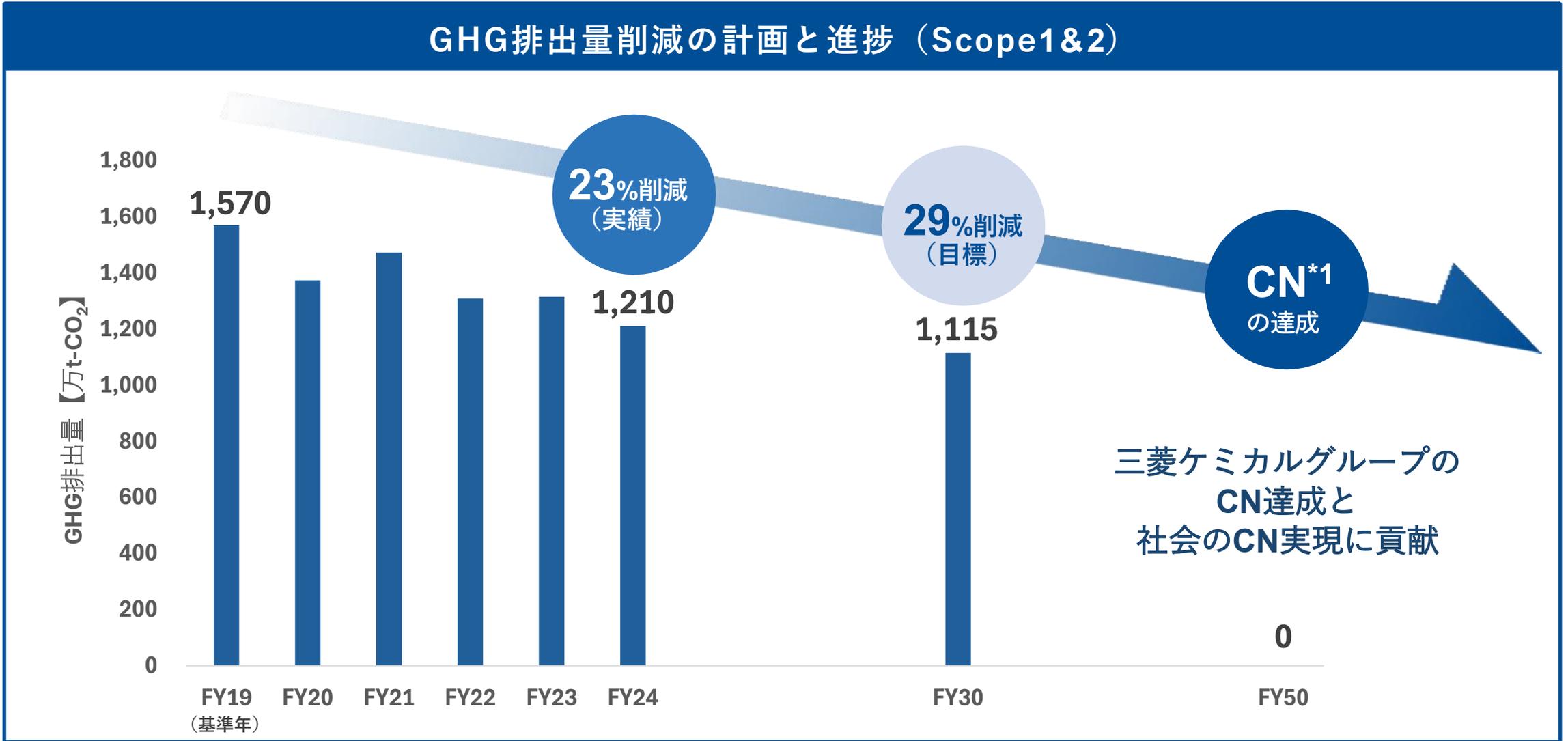
GHG排出量削減のプロセス（～2030年度）

2025年度までに燃料転換（石炭→LNG）の詳細設計を進め、2030年度までに脱石炭化の完了を目指す



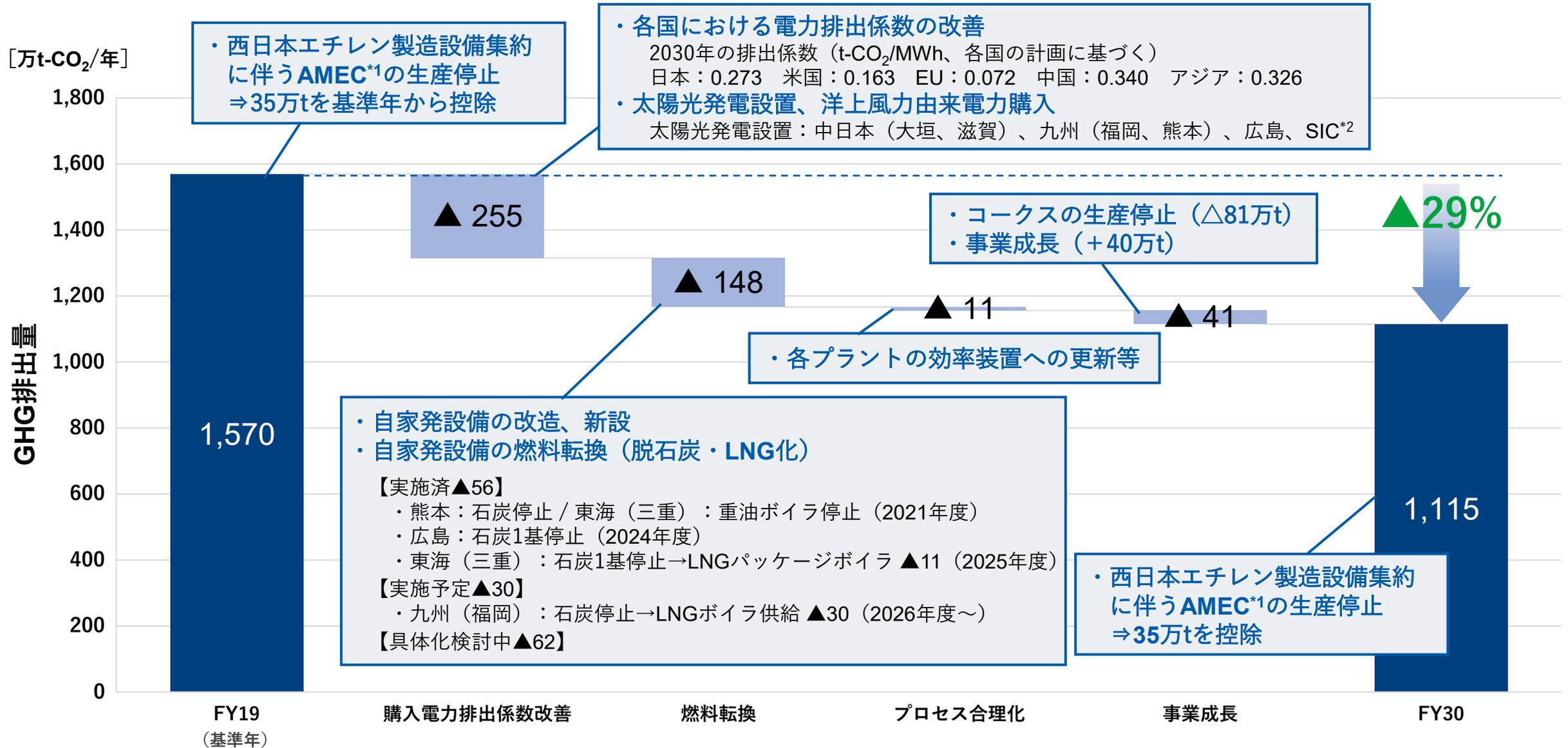
2030年度GHG排出量削減目標

GHG排出量削減の計画と進捗 (Scope 1&2)



*1. Carbon Neutrality

2030年度GHG削減計画



・西日本エチレン製造設備集約に伴うAMEC*1の生産停止
⇒35万tを基準年から控除

・各国における電力排出係数の改善
2030年の排出係数 (t-CO₂/MWh、各国の計画に基づく)
日本：0.273 米国：0.163 EU：0.072 中国：0.340 アジア：0.326

・太陽光発電設置、洋上風力由来電力購入
太陽光発電設置：中日本（大垣、滋賀）、九州（福岡、熊本）、広島、SIC*2

・コークスの生産停止 (△81万t)
・事業成長 (+40万t)

・各プラントの効率装置への更新等

・自家発電設備の改造、新設
・自家発電設備の燃料転換 (脱石炭・LNG化)

【実施済▲56】

- 熊本：石炭停止 / 東海（三重）：重油ボイラ停止 (2021年度)
- 広島：石炭1基停止 (2024年度)
- 東海（三重）：石炭1基停止→LNGパッケージボイラ ▲11 (2025年度)

【実施予定▲30】

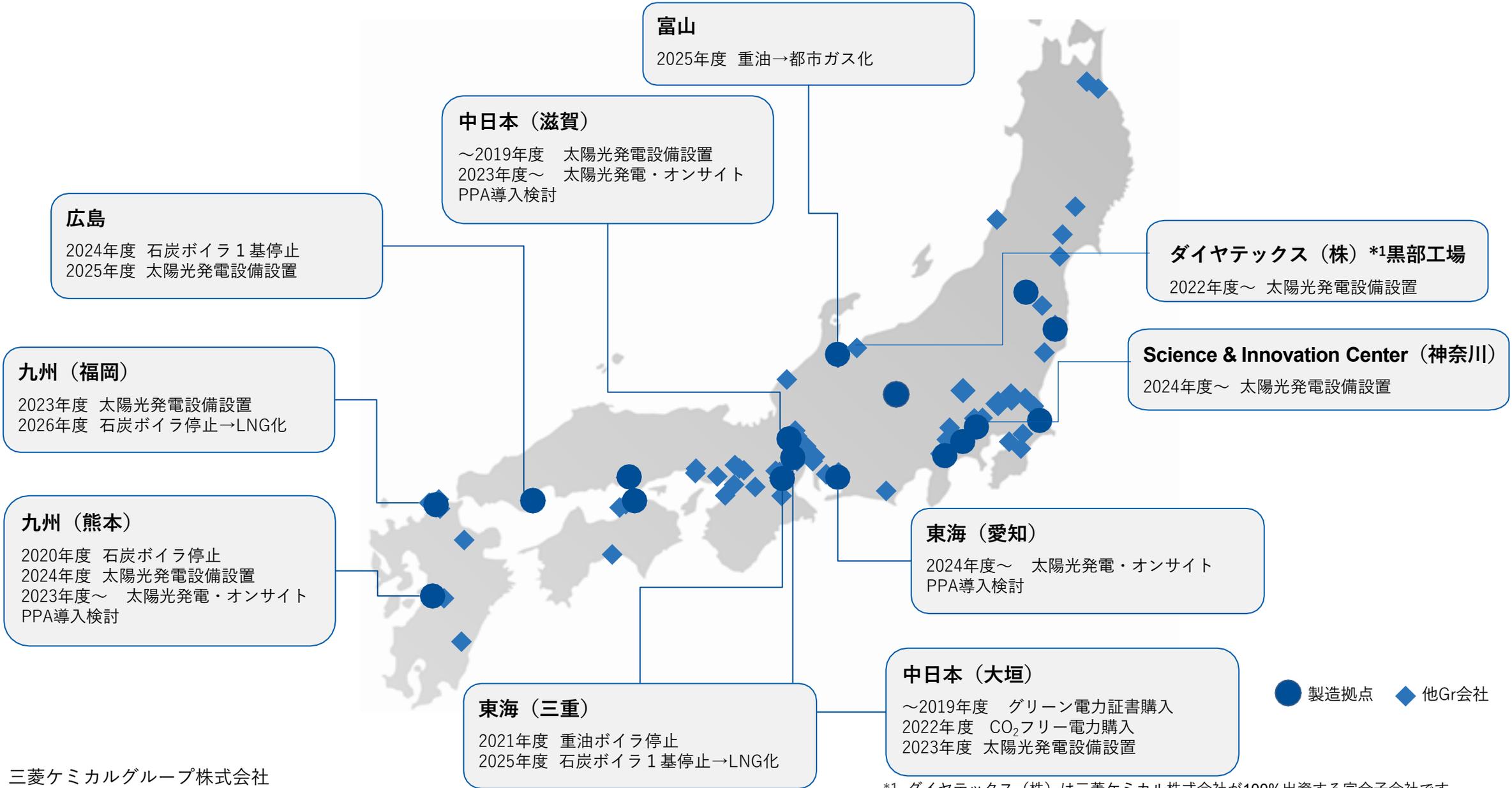
- 九州（福岡）：石炭停止→LNGボイラ供給 ▲30 (2026年度～)

【具体化検討中▲62】

・西日本エチレン製造設備集約に伴うAMEC*1の生産停止
⇒35万tを控除

*1. 三菱ケミカル旭化成エチレン株式会社
*2. Science & Innovation Center：当社のコーポレートイノベーションの中核を担う中長期的な研究開発 (R&D) の拠点

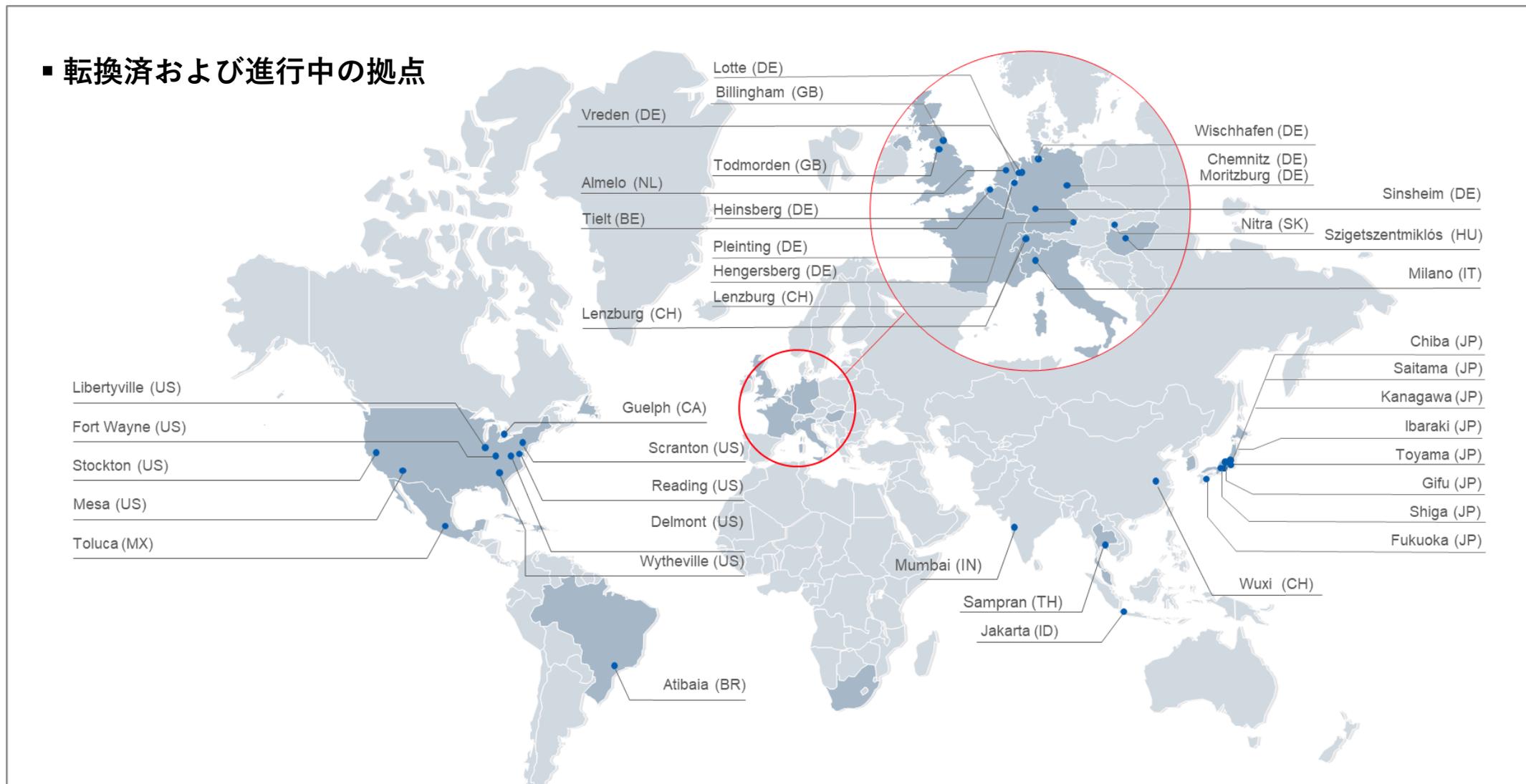
ケミカルズ事業拠点における燃料転換への取り組み



*1. ダイヤテックス（株）は三菱ケミカル株式会社が100%出資する完全子会社です。

グローバルにおけるエネルギー転換への取り組み

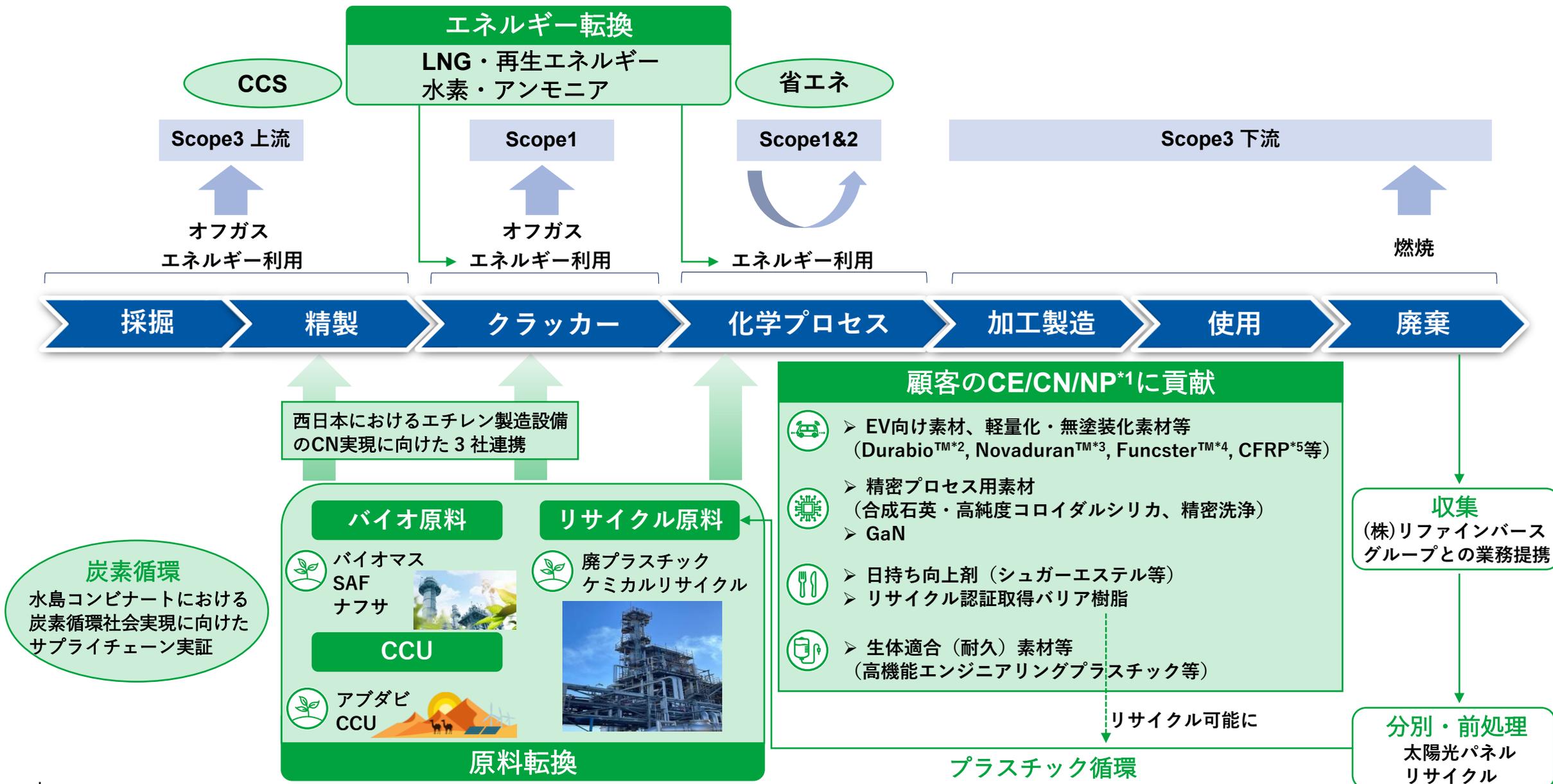
欧米を中心に再生可能エネルギー（太陽光パネル、再エネ電力）への転換が進行中



目次

- 1 当社のサステナビリティ・グリーンケミカルの方角
- 2 GHG削減
- 3 **サステナビリティを核とした事業成長の実現に向けて**
 - グリーンケミカルへの取り組み
 - スペシャルティマテリアルズにおける顧客貢献

化学サプライチェーンにおけるサステナビリティの方向性と当社の主な取り組み



*1. Nature Positive (ネイチャー・ポジティブ)

*2. 植物由来素材の高性能透明エンジニアリングプラスチック

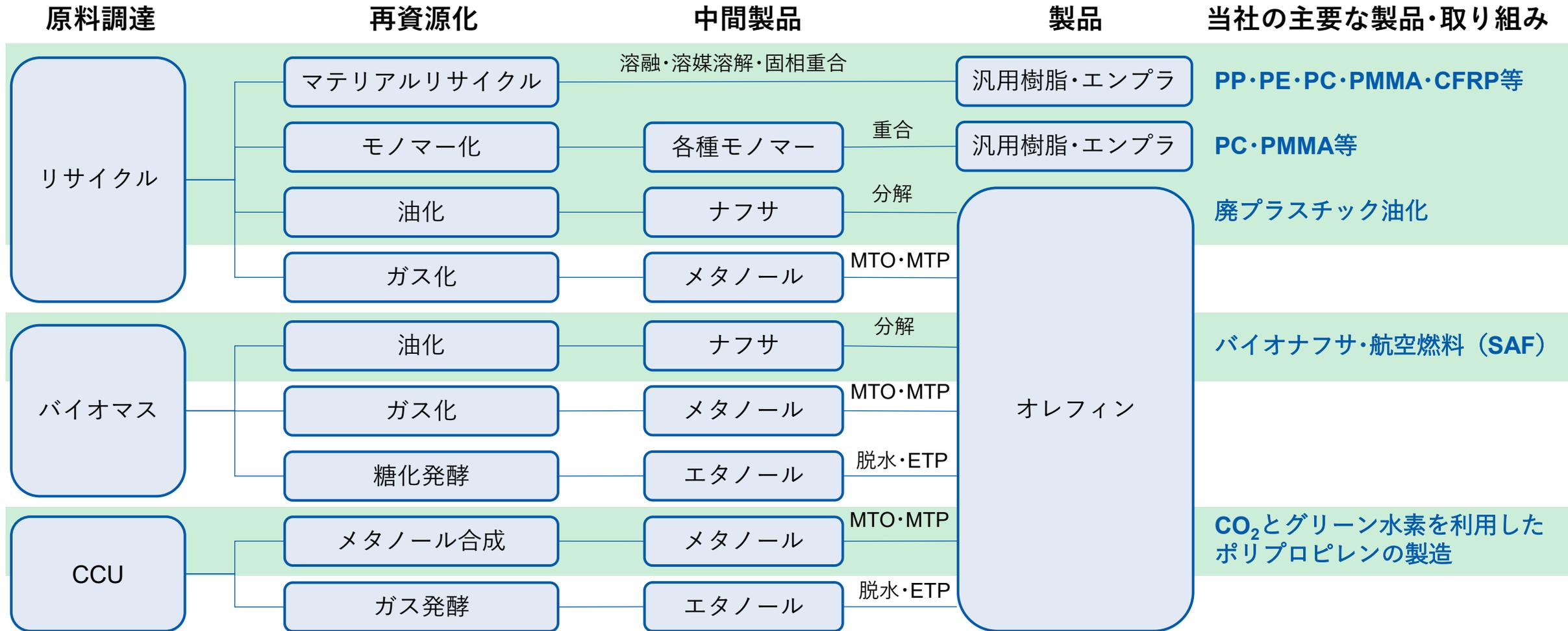
*3. ポリブチレンテレフタレート (PBT)樹脂

*4. 高機能ガラス長繊維強化ポリプロピレン

*5. Carbon Fiber Reinforced Plastics

原料転換への取り組み全体像

顧客のCE/CN/NP実現に貢献するために、当社製品の原料転換を幅広く取り進めています。



PP・・・ポリプロピレン PE・・・ポリエチレン
 PC・・・ポリカーボネート PMMA・・・アクリル樹脂
 CFRP・・・炭素繊維強化プラスチック

MTO: Methanol to Olefins・・・メタノールからオレフィンを製造するプロセス
 MTP: Methanol to Propylene・・・メタノールからプロピレンを製造するプロセス
 ETP: Ethanol to Propylene・・・エタノールからプロピレンを製造するプロセス

グリーンケミカル：原料転換の代表的な取り組み

各領域のパートナーと協業し、MCG独自技術を活かしたリサイクル・バイオマス・CO₂利活用の3ルートにおいて開発・事業化検討を推進

リサイクル

 2025年度 運転開始予定

超臨界水を用いた油化による、
廃プラスチックのケミカルリサイクル



 **ENEOS**

バイオマス

 2030年頃 事業化検討中

木質原料由来の航空燃料、並びに
バイオナフサの製造



 **JAPAN AIRLINES**  **Marubeni**  **MITSUBISHI CHEMICAL GROUP**
 人と環境のごとを一步進んでまいります **中国木材株式会社**  **BOEING**  **大林組**

CO₂ CCU

 2030年頃 事業化検討中

CO₂とグリーン水素を原料とした
ポリプロピレンの製造



 **MASDAR**  **INPEX**

廃プラスチックのケミカルリサイクル：プラント最新稼働状況

プラント概要

共同事業主：ENEOS株式会社

立地：当社茨城事業所内（茨城県神栖市）

技術：英国Mura Technology社 Hydro-PRT®技術

処理能力：年間2万トン（廃プラスチック処理量）

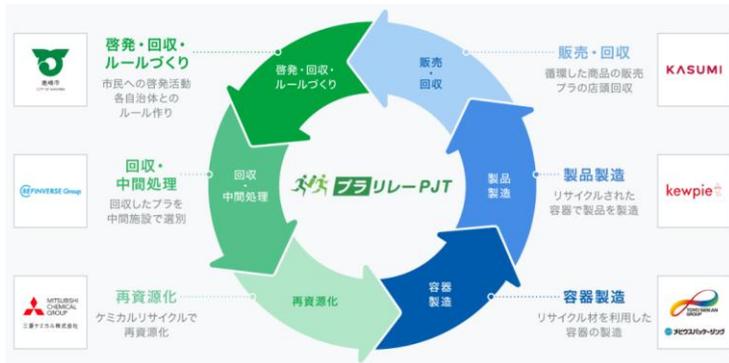
稼働状況：2025年7月竣工、2025年度内の商業運転開始予定



廃プラスチックのケミカルリサイクル：お客様との取り組み

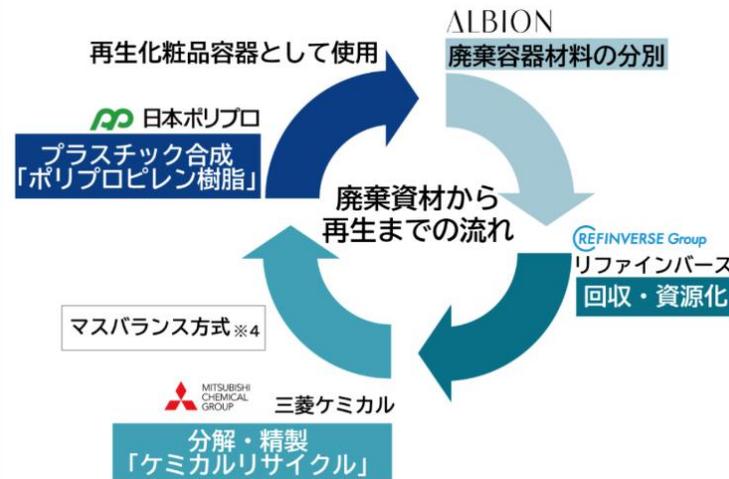
プラリレープロジェクト

店舗・自治体で回収したプラスチックの油化・樹脂化、容器メーカーでの成型を経たブランドオーナーによる流通・製品販売



(株)アルビオンとの協業

工場発生プラスチックの油化・樹脂化から、コンバーターでの成型、ブランドオーナーによる最終製品製造までのクローズドループ構築



三井物産(株)・(株)セブン・イレブン・ジャパンとの共同取り組み

大阪・関西万博会場で発生した店舗由来プラスチックの産業廃棄物処理業者による選別・分別および油化、各種プラスチック製品としての活用



回収ボックス

廃プラスチックを原料とするポリプロピレン製品

- ・ケミカルリサイクル・マテリアルリサイクル由来のポリプロピレンを2025年より製造・販売開始
- ・バイオマス由来ポリプロピレン・ポリエチレンの販売も開始。さらに、CO₂およびグリーン水素を原料とするポリプロピレンの事業化を検討し、製品のラインアップ拡充を推進



■(株)アルビオンの新「ラルネ」化粧品容器へ採用

- ・アルビオン工場より排出された廃プラスチックを原料とするクローズドループ体制を構築
- ・バージン材同等の高品質なリサイクルPPにより、化粧品容器に求められる高い意匠性・安全性を実現



■KGモーターズ(株)の小型モビリティロボット「mibot®」内装部材に採用

- ・ポストコンシューマーリサイクル(PCR) PP25%含有
- ・材料設計技術によりバージンPP同等品質を達成



アルビオンの廃棄資材例

ALBION

回収
資源化

リファインバース
グループ

分解
精製

「ケミカルリサイクル」

三菱ケミカル

プラスチック
合成

「ポリプロピレン樹脂」

日本ポリプロ
NOVAORBIS™ -CR

容器
成型

吉野工業所

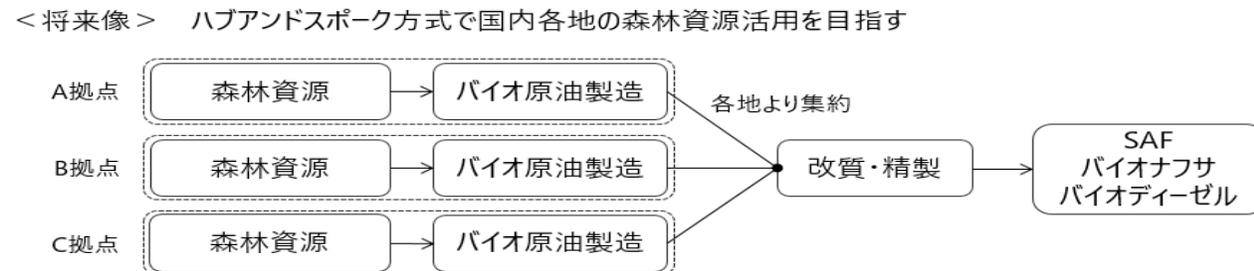
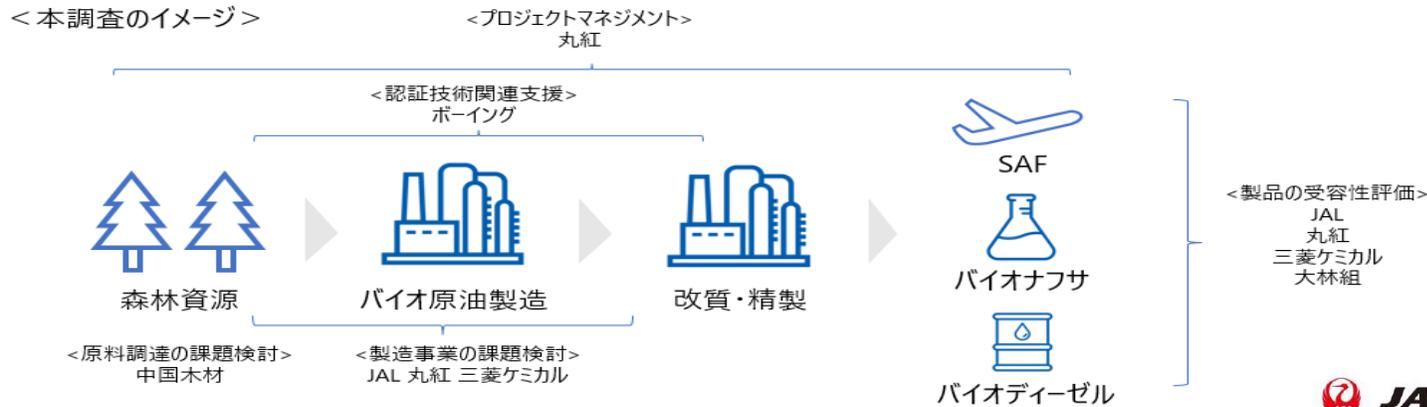


ALBION



国内森林資源の活用によるバイオナフサ事業の創出

- 当社を含む6社で国内の森林資源から持続可能な航空燃料（SAF）、バイオナフサ、バイオディーゼルを製造・販売する事業についての事業性調査を目的とした覚書を締結
- 豪Licella社*1の先進技術を活用し、国内の木材残渣からバイオ原油を製造し、SAFやバイオナフサ、バイオディーゼル等の製品を製造する、国内地産地消型サプライチェーンの構築を想定
- 2030年頃の商用化を目指して、現在、事業の経済性評価、原料の供給・処理システムの検討、製造プロセスの検討、製品のロジスティックスの評価、CO₂排出量削減効果の評価を含む事業性調査を推進中
- 6社の知見を結集し、脱炭素製品の国産化と、森林資源を活用した新産業の創出による地域活性化、さらに、森林資源の循環を促進し、日本の森林が抱える課題解決にも貢献することを目指す



*1. Licella社は、豪州に本社を置き、次世代の高度なりサイクルプロセスである水熱液化技術（Cat-HTR™）を用いて持続可能な循環型ソリューションを提供する企業

市場動向

- ▶ 次世代モビリティ（EV、FCVなど）の拡大
 - ・ 車両軽量化の要求増加：大容量バッテリー搭載等により約23%程度の重量増加
 - ・ 燃費基準厳格化の方向：日本での2030年度平均燃費目標値は25.4km/L（乗用車）であり、新たにEV・PHEVが対象*1
- ▶ 先進運転支援・自動運転システムの拡大
 - ・ 世界市場規模拡大（2030年の新車への搭載台数ベース）：レベル2/2+→5,279万, レベル3→337万, レベル4→80万*2
 - ・ 衝突回避技術の高度化：プラスチック材料の適用領域が拡大（軽量性、絶縁性、難燃性など）

製品概要

■ 塗装レスによる工程削減とそれに伴うエネルギー使用量削減、VOC低減に貢献する製品群

- ▶ **FUNCSTER™**：高性能ガラス長繊維強化熱可塑性樹脂
 - ・ 高強度・高流動・高外観を有する軽量高剛性材料
 - ・ 強度は鉄の約3倍で、20~40%の部品軽量化が可能



- ▶ **DURABIO™**：植物由来の透明エンジニアリングプラスチック
 - ・ 優れた耐衝撃性に加え、光沢のある意匠性を実現



BMW Kidney Grille Surround (© Image Credit: BMW Group)

■ モビリティ分野向け ポリマー・コンパウンド成長戦略

- ▶ 潜在ニーズの高い市場に迅速にアプローチし、開発・販売・マーケティングを一体化。顧客とのエンゲージメントを強化
- ▶ PPコンパウンドの海外拡販（北米・インドでのライン増設）
- ▶ 技術開発拠点の強化による拡販（中国・開発&マーケティングセンター設立）
- ▶ 中国系を含む非日系自動車メーカー向けシェア拡大

*1. 出典元：日本自動車工業会 https://www.jama.or.jp/operation/ecology/fuel_efficiency/index.html

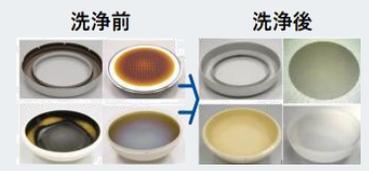
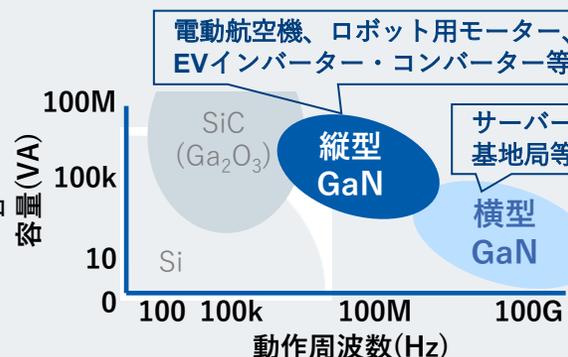
*2. 出典元：矢野経済研究所 https://www.yano.co.jp/press-release/show/press_id/3693

市場動向

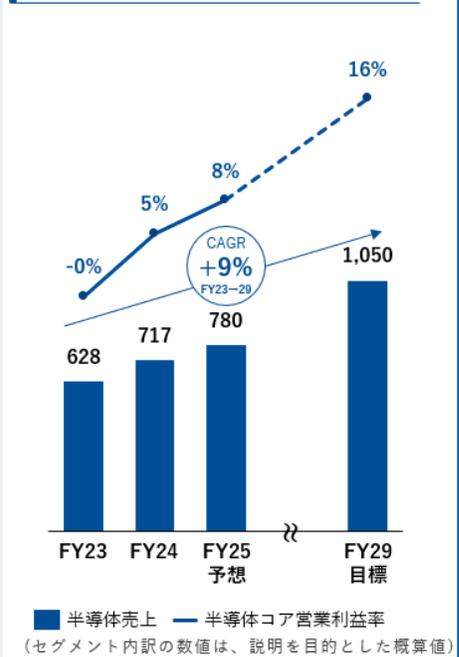
- デジタルデータ利用量（データセンター）の飛躍的な増加
 - ・ **パワー半導体GaN市場規模拡大**：2023年74億円→2035年予測2,674億円（2023年比36倍）*1
 - ・ **高効率・省電力化対応への要求増加**：シリコンからGaNへの代替（電力消費量の大幅削減）など
- 半導体製造プロセス全体の省エネ・省資源化
 - ・ 超純水・薬剤製造時の省エネ化や、**不純物を高精度かつ高効率で除去する洗浄への要求増加**

製品概要

- **GaN基板：パワー半導体・発光デバイス用基板**
 - ・ 高品位GaN単結晶基板製造技術による**低コスト・大口径化の実現**
 - ・ 縦型と横型を共に対応可能な **GaN-on-GaN***2デバイス用に開発中
 - ・ 縦型の特性が活かせる高出力・高付加価値用途へ展開
- **三菱合成石英™：超高純度の合成石英粉**
 - ・ **高集積化が進む半導体製造に欠かせない材料**で、原料から一貫生産を実施
 - ・ 需要拡大に対応して生産能力増強（2028年度 福岡）
 - 世界シェア：100%*3（300mmウェハ生産用途）
- **精密洗浄サービス：最先端デバイス向け認定精密洗浄サービス**
 - ・ グローバル体制で**地域・顧客の特徴に合わせた洗浄サービス**を展開
 - ・ 需要増に対応して工場新設・能力増強（2026年度 福島・岩手）
 - 世界シェア：日/亜・欧 No.1*3



売上収益・利益率（億円）



*1. 出典元：富士経済グループレポート2024
 *2. 競合基板のGaN on SiC, GaN on Siは縦型対応不可
 *3. FY24当社推定

市場動向

- **グローバルな食料需給ギャップへの対応**
 - ・世界的な人口増加・経済成長などを背景に、**加工食品の需要が増加**
 - ・世界における食品廃棄量は、年間約10億トン*¹。さらに、世界で飢餓に苦しむ人は世界人口の約9%*²
- **都市化やEC・宅配市場の拡大等による鮮度保持への需要拡大**
 - ・食品の保管期間の延長と品質のトレードオフ解消を可能にする**品質保持ソリューション**や**酸化防止素材**への要求増加*³

製品概要

- **乳化剤リョートー™シュガーエステル：植物由来の乳化剤**
 - ・水と油を安定的に分散させ、食品の品質・外観・食感を安定化
 - ・食品の**おいしさ・安全と保存期間延長の両立**に貢献
 - 世界シェア約70%*⁴、米国加工食品市場のCAGR (CY25-29) +4%*⁴
- **ソアノール™：高いガスバリア性を有するEVOH樹脂**
 - ・食品容器包装に用い、**食品のロングライフ**に貢献 (PPの約40,000倍のガスバリア性)
 - 世界シェア約35%*⁴、EVOH市場のCAGR (FY24-29) +6%*⁴
- **ダイアミロン™：食品容器包装等に用いられる無延伸多層フィルム**
 - ・1枚のフィルムにガスバリア性、易開封性、高耐熱性などの機能を自在に組み合わせることが可能
 - ・シールタイプの用途開発をすすめ、更なる**フードロス削減**への貢献を目指す

■ プリマハム(株)の商品「十勝グルメの便り ロース生ハム」の包装材にリシール（再開封）性を付与したダイアミロン™が使用



出典元：プリマハム(株) Webサイト*⁵

*1. 出典元：UNEP Food Waste Index Report 2024

*2. 出典元：WFP <https://www.wfp.org/ending-hunger>

*3. 出典元：FAO https://www.fao.org/japan/resources/fao-publications/pub-289149/jp?utm_source=chatgpt.com

*4. FY24当社推定

*5. 出典元：プリマハム(株) Webサイト <https://www.primaham.co.jp/products/detail/0009.html>

市場動向

- 健康寿命の延伸／医療技術の進歩
 - ・ 国内の人工膝関節置換術
2020年～2023年で約29%増加の約9万件*1。2030年に向けても年間3-5%の増加予測
 - ・ 摩耗や劣化を抑えた耐久性向上素材へのニーズ拡大
- 資源循環に向けた将来の取組
 - ・ 医療機器、医薬品の製造・流通工程では多くのプラスチックを使用。ケミカルリサイクル技術への期待も高まりつつある

製品概要

- 人工関節等高機能プラスチック部材の提供（シェア約50%*2のリーディングサプライヤー）
- 超高分子量ポリエチレン素材（商品名：Chirulen™、Extrulen™）
 - ・ 股関節・膝関節を主体とした人工関節で使用
- ポリエーテルエーテルケトン（PEEK）素材（商品名：Zenvia®）
 - ・ 脊椎固定用ケージ・縫合アンカーなどに使用
- 素材段階での規制適合・安全性データの提供により、医療機器メーカーの開発期間の短縮をサポート
 - ・ 国際基準に準拠した品質管理、生物学的安全性評価



Zenvia®切削用素材



Chirulen™加工例
人工膝関節ライナー

*1. 日本人工関節学会レジストリー

*2. FY24当社推定（脊椎固定用ケージ向け・人工股関節・人工膝関節置換術向けインプラント樹脂素材）

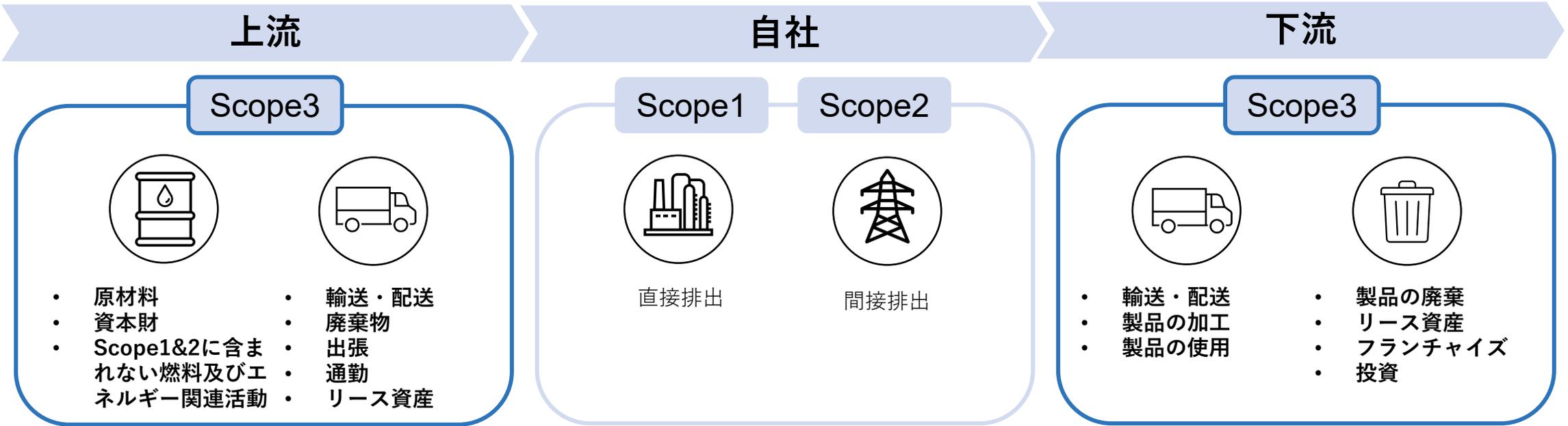


Appendix



Scope3について

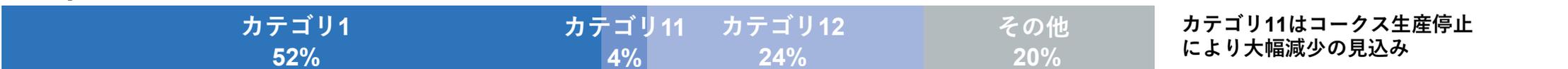
- Scope3はサプライチェーンの「上流」と「下流」、GHGプロトコルにて規定された15のカテゴリーに分類
- Scope3に係るGHG排出量は40,962千tCO₂e、内カテゴリ1・11・12がScope3全体の86%を占める（2024年度実績）



Scope3: 40,962千tCO₂e (2024年度実績)

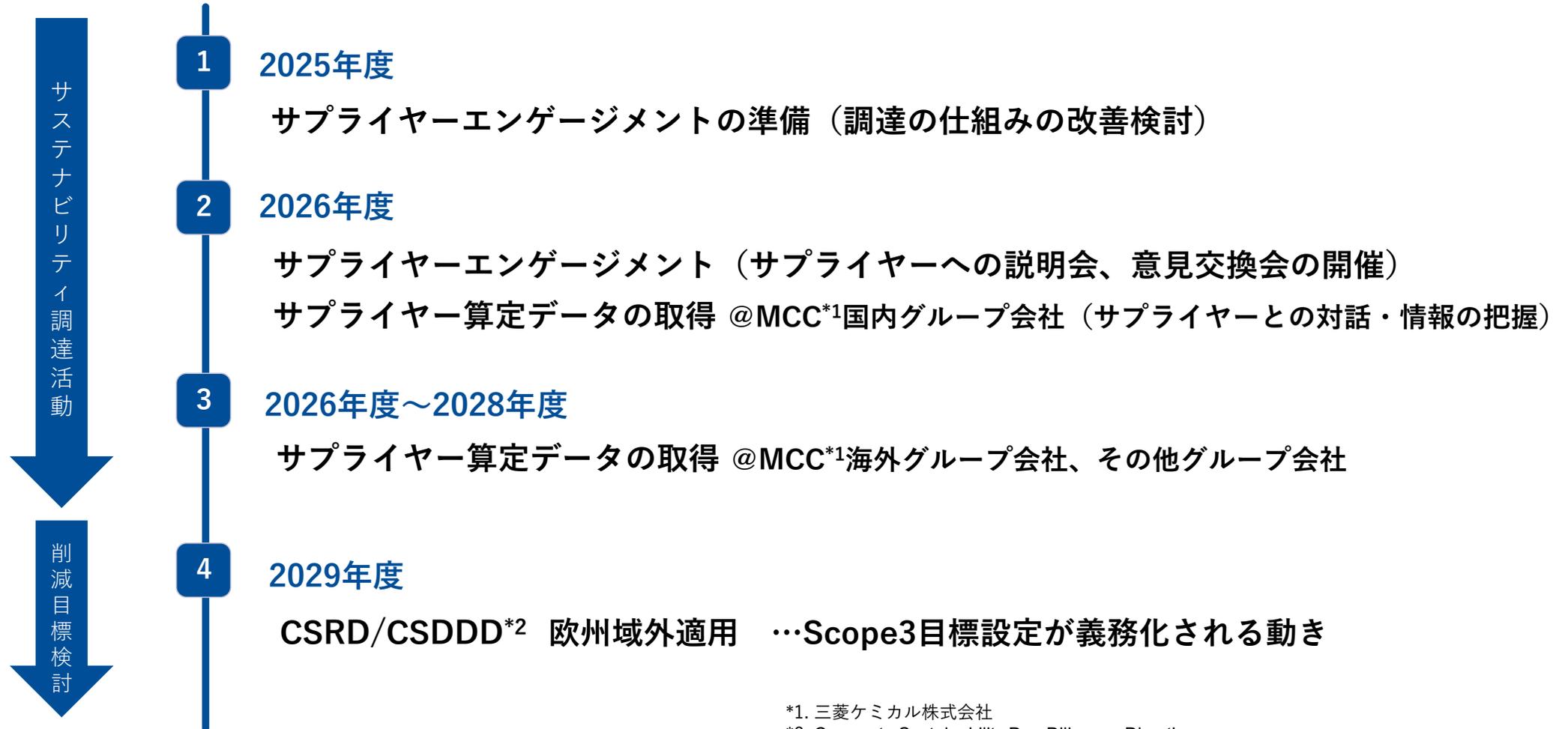


Scope3: 29,651千tCO₂e (AMEC*1・コークス生産停止後 予想値)



Scope3 カテゴリー1削減とサステナブル調達の実践プラン

- Scope3 カテゴリー1削減のため、排出原単位を現状の二次データからサプライヤー算定データへ要変更
- サプライヤーの取り組みを共有・支援し、サプライチェーン全体のGHG削減を目指す



*1. 三菱ケミカル株式会社

*2. Corporate Sustainability Due Diligence Directive
 (EUのコーポレート・サステナビリティ・デューディリジェンス指令)

サステナビリティ調達活動

三菱ケミカルとそのグループ会社は、主要な取引先へCSRアンケートを実施、アンケート結果を分析し、ESG関連課題に対する取り組み状況に応じてA～Dのランクへ分類

93%

24年度実績

購入金額に占める
CSRアンケート調査実施率

2,262社

21-24年度実績

CSRアンケートによる
当年度評価社数

648社

21-24年度実績

CSR調達説明会による
サプライヤー教育
(対象：B, C, Dランク)

284社

21-24年度実績

個別ヒアリングの実施
(対象：C, Dランク)

*CSRアンケートのランクと定義

- A：十分な取り組みができており、人権への負の影響が少ないと思われるサプライヤー
- B：取り組みができており、継続的な活動を通してレベルアップをお願いしたいサプライヤー
- C：取り組みはできているが、一部懸念が見られるサプライヤー
- D：取り組みが不十分である可能性があり、最優先に状況を確認したいサプライヤー

本説明会*1および本資料における見通しは、現時点で入手可能な情報により三菱ケミカルグループ株式会社（以下、「当社」）が判断したものです。実際の業績は様々なリスク要因や不確実な要素により、業績予想と大きく異なる可能性があります。

当社グループは各種機能商品、MMA、石化製品、炭素製品、産業ガス、医薬品等、非常に多岐に亘る事業を行っており、その業績は国内外の需要、為替、ナフサ・原油等の原燃料価格や調達数量、製品市況の動向、技術革新のスピード、薬価改定、製造物責任、訴訟、法規制等によって影響を受ける可能性があります。但し、業績に影響を及ぼす要素はこれらに限定されるものではありません。

数値はすべて四捨五入されており、予測はすべて概算値です。

*1. ここで記す「説明会」とは、三菱ケミカルグループ株式会社によって説明または配布された本資料、口頭でのプレゼンテーション、質疑応答及び書面または口頭等の資料を含みます。